史跡

国指定

下之郷遺跡（しものごういせき）

守山市下之郷町　平成14年3月19日指定

湖南西エリア

滋賀県

下之郷遺跡は、弥生時代中期後半にあった、環濠集落（かんごうしゅうらく）です。「漢書」地理志には、この集落があった頃日本には、100余りのクニがあったという記述が残っています。集落を囲む濠（ほり）や井戸跡、たくさんの遺物は、下之郷遺跡が弥生時代のクニの一つであることを示しています。

当時のできごと	
紀元前300	吉野ヶ里遺跡（佐賀）
	唐古・鍵遺跡（奈良）
紀元300	中高瀬観音山遺跡（複合・群馬）

概説

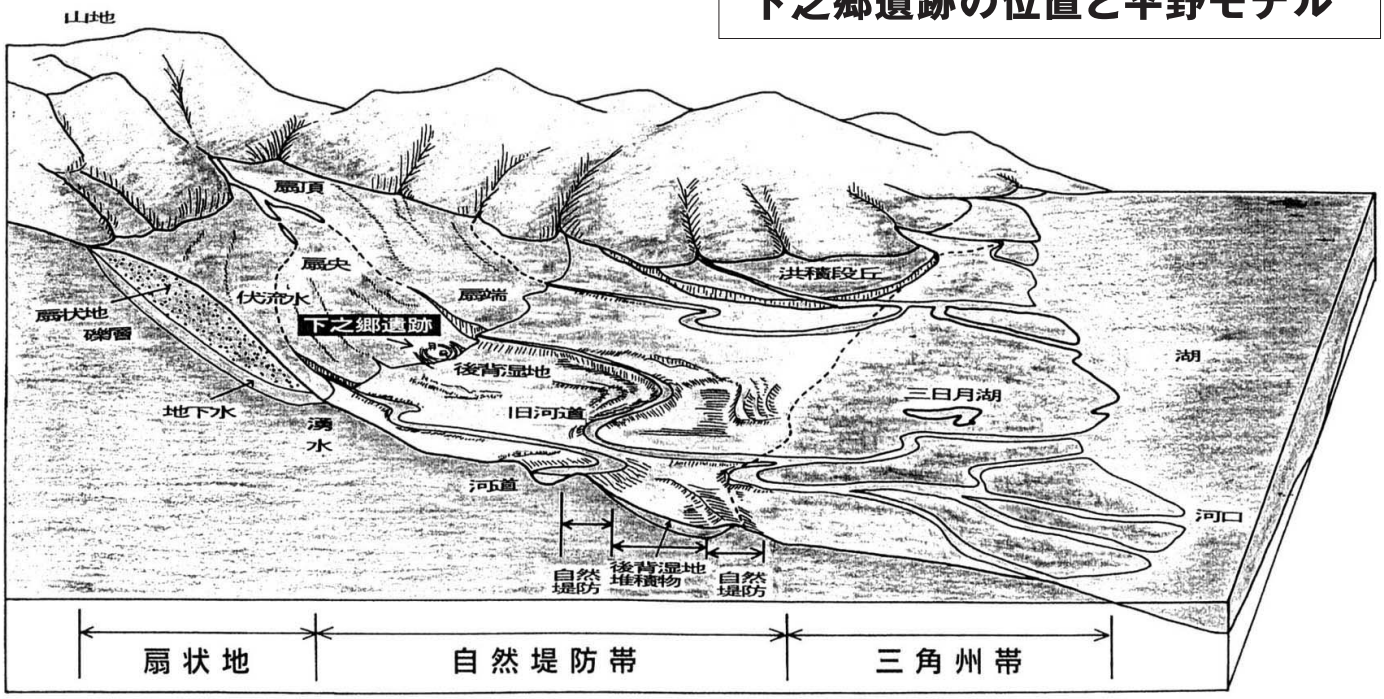
昭和55年、下之郷町で下水道工事をしていたところ、弥生時代の溝の跡や土器が見つかりました。調べてみると、この遺跡は3重の環濠（大きな溝）で囲まれた巨大な集落跡だということがわかりました。集落の規模は東西約600m、南北約380m、面積は約22万㎡あり、これは東京ドーム約4.7個分に相当する広さになります。濠（ほり）の幅は約5～7mで、深さは1.5m前後もあり、当時の土木技術を考えると相当な労働力を必要としたと考えられます。その後、その3重の溝の外にも、北東に6条の大溝が発見されています。

下之郷遺跡は野洲（やす）川下流域平野の中心の水源地帯にあり、生活を営むのにとてもふさわしい場所であったといえます。



四角に見える穴が環濠の一部（第23次調査地点）

下之郷遺跡の位置と平野モデル



※参考：田崎博之「地形と土と水田」（1989『古代史復元4 弥生農村の誕生』講談社）より一部改変・転載

下之郷遺跡の特色

下之郷遺跡の集落中央部には、東西約75m、南北約100mの方形の区画があった可能性があります。このような区画や大型建物のある弥生時代の集落跡は非常に珍しく、たくさんの「ムラ（村）」を統括する首長（王）がいた、クニ（国）の首都的なムラであったと考えられています。

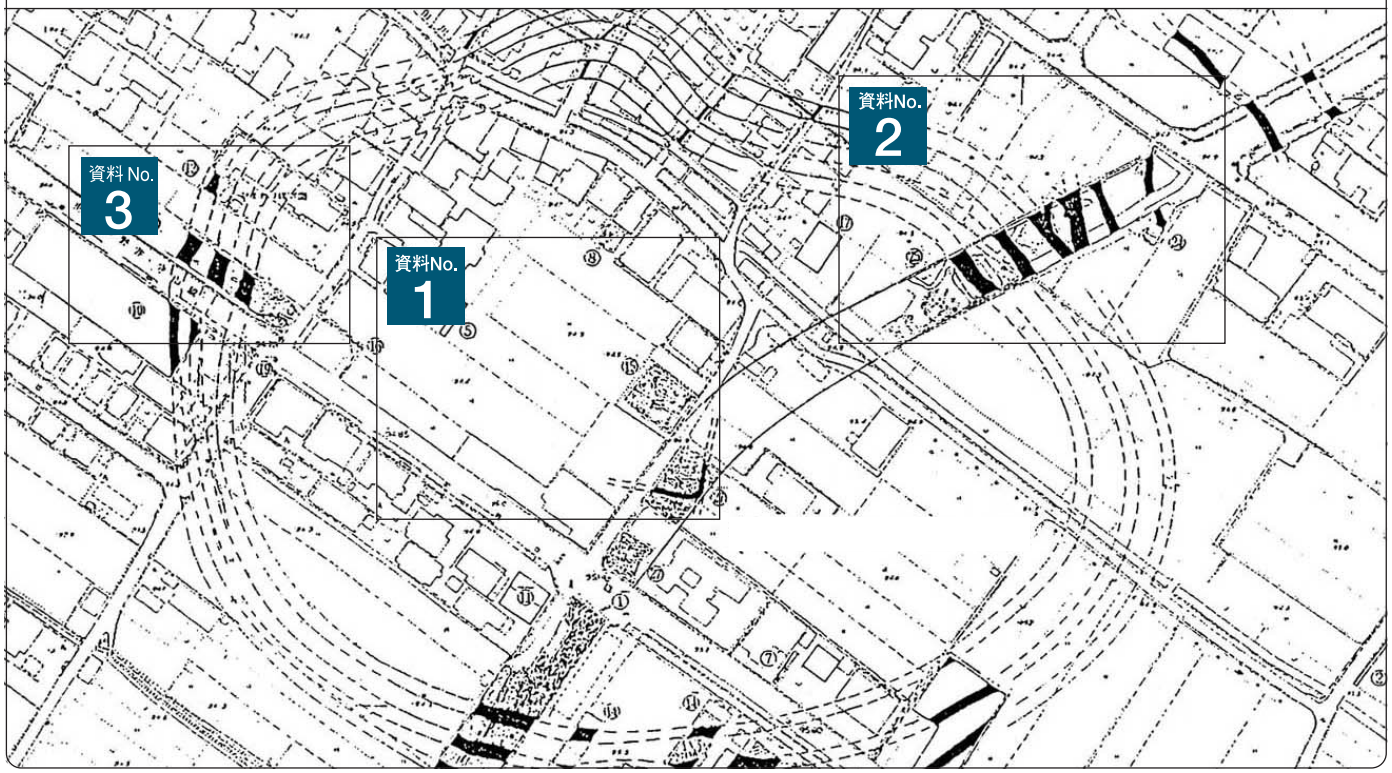
また、国々の争いが断えない不安な時代を象徴するように、村を守るための施設や武器類がたくさん見つかっていることも注目されます。

［環濠集落］

戦争や外敵、水害などからムラ（村）やクニ（国）の人々を守るために、周囲に濠（ほり）をめぐらした集落のことです。弥生時代の中期ごろからよく見られるようになりました。

下之郷遺跡全体図

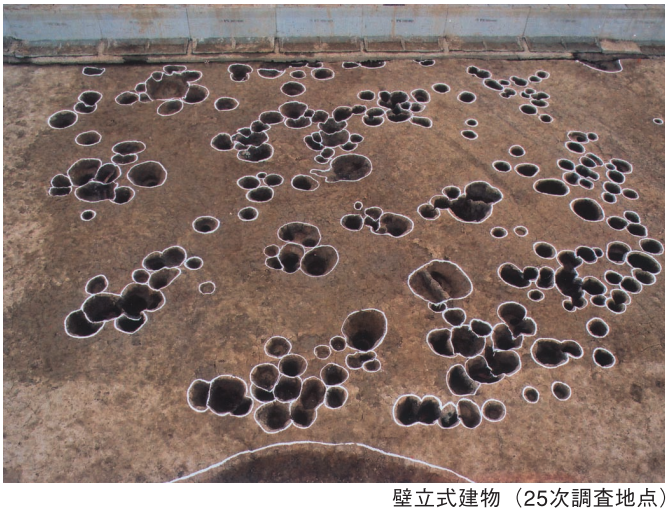
3条環濠の内側：東西約330ｍ/南北約260ｍ　3条環濠の面積：約7万㎡
9条環濠全体：東西約600ｍ/南北約380ｍ　9条環濠全体の面積：約22万㎡



資料No. 1 ムラの中心部

環濠集落中心部の区画の中にある大きな掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）は、棟を南北方向にして建ち、5回も建て替えられています。棟持柱（むなもちばしら：屋根の棟の木を両端で支える柱）があることから、この堀立柱建物は集落の集会や宗教儀式に使われたのではないかと考えられています。


集落の中心区画（44次地点）


壁立式建物（25次調査地点）



壁立式平地住居（かべだちしきへいちじゅうきょ）

円形にたくさんの柱がめぐる上の写真の遺構は、とても珍しい「壁立式平地住居」と呼ばれる建物と考えられます。中心部の穴の中には炭や灰が詰まっていたものもあり、炉の跡だと思われます。

資料No.2 ムラの北東部



3カ所の井戸のうちの1カ所（25次地点）

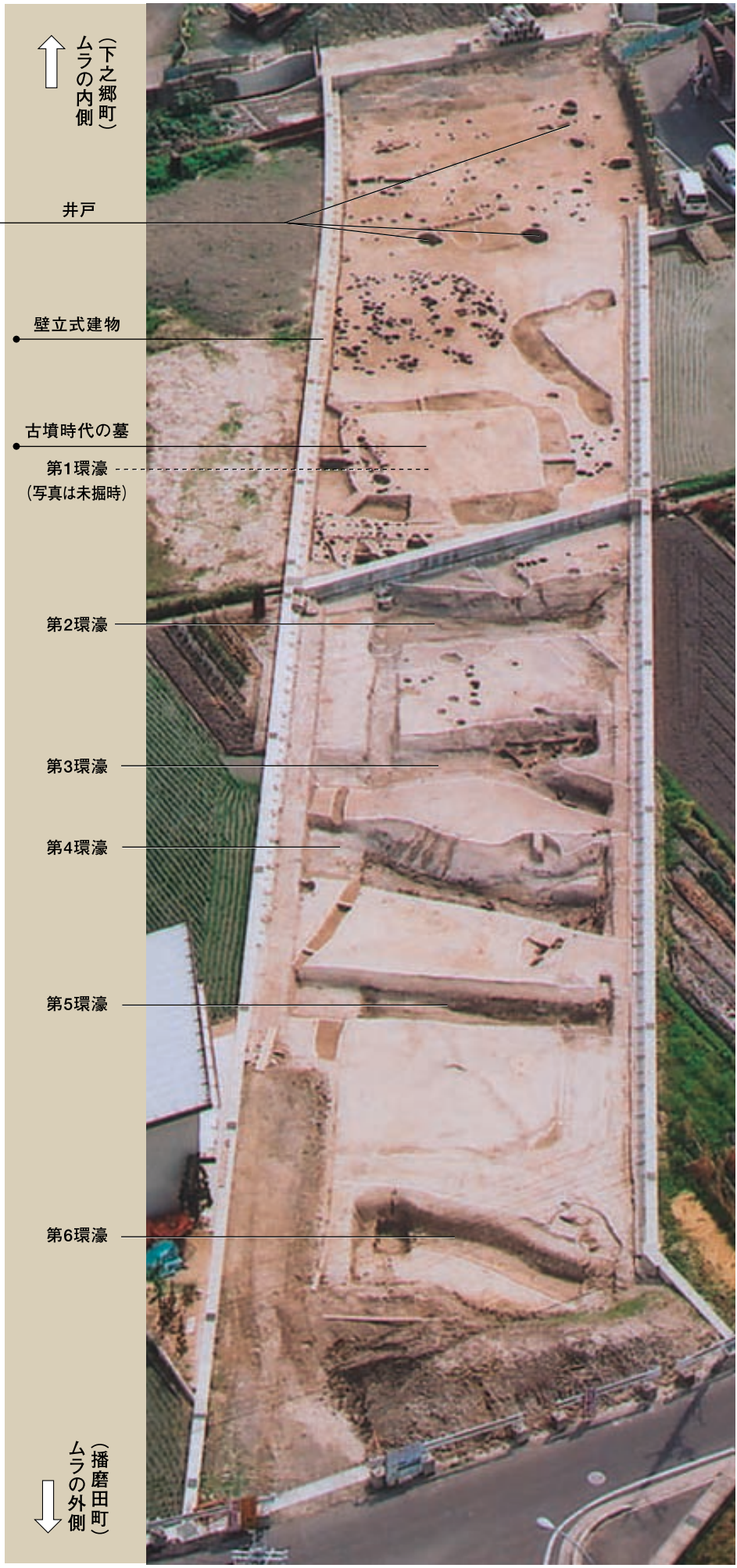
集落北東部の濠は6条になっていて、一番内側の濠は幅約8m、深さ2mもあります。発掘調査では多くの木器が出土しました。そのすぐ内側には円形状に壁立式平地住居の柱穴があるのが分かります。3カ所の井戸の中からも、稲籾（いなもみ）、クルミ、ザル、編み籠（かご）、まつりに使用した土器、動物の骨、かご目土器などが発見されています。

資料No.3 ムラの出入口

環濠の西側ではいずれも幅約5m、深さ1.5m程度の3条の濠が発見されています。内側の濠（第一環濠）には一度掘った環濠の上から幅約3mほど、土で溝を埋めた跡が見つかりました。これが出入り口だと考えられています。出入り口付近からは戦闘道具が多く出土しています。出入り口の内側には高床式建物（たかゆかしきたてもの）が見つかっています。外敵に備える見張所かもしれません。



中央の盛り上がった部分が出入り口（23次地点）



出土したものの一部

下ノ郷遺跡は地下水位の高い所にあるため、通常の遺跡では残りにくい、木や草を材料とした道具や、植物の種子、動物遺体などがたくさん出土しています。これらは当時の生活を解明するたくさんのヒントを与えてくれます。



盾

弓矢などから身を守る道具です。裏には植物の繊維を巻いた取っ手を付けて、スギ板を組み合わせて作ったと想定されます。環濠の底に落ちたと思われる状態で発見されました。



銅剣

出入り口付近、3条の濠の一番外側（第3環濠）から出土しました。青銅（せいどう）製の中細型（なかぼそがた）銅剣といわれるもので、今でも鋭利な刃先を保っています。



編み籠（かご）

環濠や井戸から多く出土した編み籠やゴザの材料は、芦（あし）や葛（かずら）などです。編み方は網代（あじろ）編みや木目編み、六つ目編みなどで、現代と同じ編み方が既に発明されていたことが分かっています。



稲籾（いなもみ）

米作りが始まった弥生時代。下之郷遺跡でも多くの稲籾が見つかっています。ＤＮＡ分析の結果、現代の日本では栽培されておらず、ベトナム、インドネシアなどに分布する「熱帯ジャポニカ」という品種が混在していました。

関連する文化財

服部遺跡（守山市）	弥生時代の大集落。大規模な水田遺構が発見された遺跡としても著名
伊勢遺跡（守山市）	弥生時代後期のクニの一つ。大型の神殿建物が円形に並ぶ特異な姿が注目されている
池上曽根遺跡（大阪府和泉市）	典型的な環濠集落。史跡
唐古鍵遺跡（奈良県田原本町）	典型的な環濠集落。史跡

もっと深く知りたい

守山市埋蔵文化財センター	☎077-585-4397	守山市服部町2250
大阪府立弥生文化博物館	☎0725-46-2162	大阪府和泉市池上町443
安土城考古博物館	☎0748-46-2424	蒲生郡安土町下豊浦6678

下之郷遺跡へのアクセス　JR琵琶湖線　守山駅下車



【参考文献】〔下之郷遺跡〕守山市教育委員会　〔下之郷遺跡発掘調査報告書〕守山市教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月